

# 9月議会 一般質問で登壇!!

9月定例議会の動画はこちら



## 子どもと家族を支える取り組みについて

### ■ 付添い入院の環境整備

**Q** 子どもの入院に付き添う家族の環境はベッドなどがないこともあるなど、課題が指摘されている。新病院では小児救急の受け入れが増えることが予想され、付き添い家族の負担軽減のための休憩室整備が計画されている中、病床数減少となる中、確実に整備されるのか、またどのような施設を想定しているのか?

**A** (健康福祉局長) 県立広島病院では、希望者への病院食の提供等のソフト面での取組を実施しており、新病院においてもこれらの取組を継続するほか、小児病棟の個室数の拡充、付添い家族が利用できる鍵付きロッカー整備等を計画している。

私の知人もお世話になりました!!

## お子さまの急な入院!

そんなときのために付添い入院サポート

闘病中のお子様を支える家族を応援します。  
入院先への(食品、生活品セット)お届け無料サービス

申込みはコチラ

### ■ 母乳バンクの登録推進

**Q** 全国でドナーミルクの活用が進む中、広島県では使用可能な施設が未整備となっているが課題はなにか。また、母乳が必要な子どもに母乳が届くよう、母乳バンクの登録を推進する必要があるのではないかな?

**A** (知事) ドナーミルクを使用しない理由は、人工乳で問題がなく母親からのニーズがない。対象となるリトルベビーが少なく保管などの費用がかかる。安全性に懸念がある。などの意見がある。県としてもニーズ把握に努め、当事者や関係者の意見を伺いながら対応を検討していきたい。

### ■ リトルベビーハンドブックの利活用

**Q** リトルベビーの保護者は育児不安や孤独感を抱えやすく、支援が重要。県は令和3年に「ひろしまリトルベビーハンドブック」を作成し、今年度は内容改訂に着手しているが、今後は、ポスター作成や講習会開催などを通じて周知を強化し、医療・福祉・教育分野等との情報共有の円滑化に取り組む必要があるのではないかな?



**A** (健康福祉局長) 今年度、検討会を設置し、同ハンドブックの内容の更なる充実を図っていく。また、改定後には、SNSや関係団体等を通じた広報や関係者への講習等の機会も利用し、同ハンドブックを広く知ってもらうよう努めていく。

## 防災関係

### ■ 地区防災計画策定の推進

**Q** 本県の地区防災計画は1地区のみと策定が進んでおらず、実効性ある支援体制が課題となっている。災害リスクが高い地域や担い手不足の地域を県独自のモデル地区に指定し、専門職員等による伴走支援や成功事例の横展開など、県主導の支援体制構築が必要と考えるが、今後どのように進めていくのか?



温品地区の地域防災計画策定にむけたWG!!

**A** (危機管理監) 市町と連携し、「避難の呼びかけ体制」の構築や、災害リスクの高い地域での「地域防災タイムライン」を活用した訓練や防災リーダー育成などの取り組みを進めている。また、市町に対して、職員の研修や自主防災アドバイザー等の派遣、先行自治体の事例紹介など行い、計画策定を促進する取り組みを支援していく。

### ■ 個別避難計画の実行性の確保

**Q** 個別避難計画は実効性がなければ意味がない、要支援者が参加する避難訓練の実施と計画の見直しが不可欠。県内市町でも防災・福祉などの関係部局とうまく連携すれば、要支援者も参加した訓練ができるのではないかな?県庁内の防災・福祉部局の連携状況や、市町における連携推進への支援の取組、また市町が策定する個別避難計画の実効性確保に向けてどう支援をしていくのか?

**A** (健康福祉局長) 県庁内に「広島型避難行動推進プロジェクトチーム」を設置し、関係部局と取り組みの進捗状況の共有、課題解決に向けたグループワーク等を行っている。市町の連携は、防災アドバイザーを派遣し福祉部門、防災部門が同席のもとで課題の洗い出しや解決策の検討を行うようなど支援している。また、現在の避難行動要支援者と関係者のみの訓練を地域の避難訓練と合同で実施するよう働きかけていく。



温品地区の避難訓練では、要支援者にも参加してもらいました

その他、医療的ケア児の個別避難計画策定について質疑!!

## 広島県立病院機構で働く方の働きがいに資する制度改正

**Q** 医療従事者の確保には職場環境やモチベーション向上が不可欠。新病院での職員の定着率向上に向けて、永年勤続表彰や副賞付きの表彰制度など、モチベーション向上に資する表彰制度などを導入していく必要があるのではないかな?

**A** (健康福祉局長) 医療の品質向上に向けた活動、優れた実績を上げた部署への表彰は継続して行っている。今後は、優良な行動事例を表彰する制度の創設を予定しており、副賞も含めた内容については、職員の意見を聞きながら検討していく。

### 新病院の設計変更!

| 新病院の主な変更点 |           |                       |     |
|-----------|-----------|-----------------------|-----|
| 区分        | 当初計画      | 変更後                   |     |
| 病床数       | 1,000床    | 860床(開院時)※<br>~1,000床 |     |
| 診療用機器     | エックス線透視装置 | 8台                    | 7台  |
|           | アンギオ装置    | 6台                    | 5台  |
|           | CT装置      | —                     | 1台  |
|           | 一般撮影装置    | 7台                    | 8台  |
|           | 手術室       | 25室                   | 23室 |
| 駐車場       | 約500台     | 約445台                 |     |

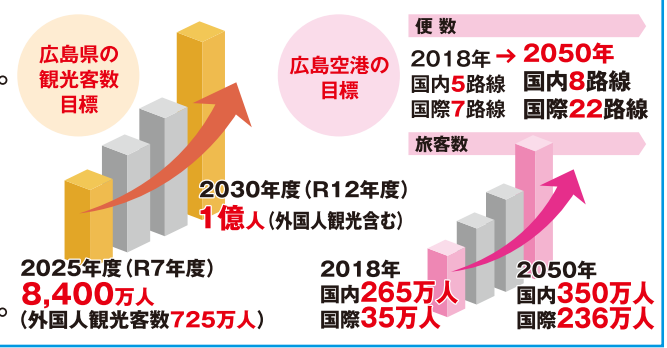
※緩和ケア病床(20床)、感染病床(8床)を新設

## 観光立県ひろしまに向けた広島空港の活性化

### ■ 広島空港の活性化における宿泊税の活用

**Q** 観光立県を目指す本県にとって、外国人観光客の誘致には広島空港の活性化が不可欠。宿泊税を活用して、インバウンド戦略の中核を担う広島空港の路線誘致に向けた支援策が必要ではないかな?

**A** (商工労働局長) 県として、航空会社に対してグランドハンドリングなどの経費を支援し新規就航を促進している。また、旅客数を増やすため、空港と観光地のアクセス拡充、リムジンバスのカード決済導入、空港利用者の利便性向上やプロモーションに取り組んでいる。宿泊税の使途の検討を進める中で、広島空港活性化のためのより効果的な施策を協議していきたい。



### ■ 広島空港の所管体制について

**Q** 空港振興と観光施策の連携が不可欠となる中、本県では所管部局が分かれており、現行の所管体制を見直し、観光と空港振興の施策を一体的に推進できるよう、組織改正を含めた連携強化の在り方についてどのように考えているのか?

**A** (知事) 空港アクセス強化については、「広島空港アクセス対策プロジェクトチーム」を設置し、関係者と連携してハード・ソフト対策を取り組んでおり、空港振興施策と観光施策のより一層緊密な連携を図り効果的な施策に取り組んでいく。